

浸水被害が生じた農業用排水機場の「仮復旧マニュアル作成指針」（概要版）

1 仮復旧マニュアル作成の目的

県内には、市町や土地改良区などが管理する基幹的な農業用排水機場が230か所あり農地の排水のみならず市街地も含めた地域一帯の排水を担い住民の生命と財産を守っています。しかし、近年、各地で頻発する想定を超える豪雨の際には、排水機場そのものが浸水する恐れがあり、2000年の東海豪雨では排水機場が浸水に見舞われました。

一旦浸水し被害を受けた排水機場は稼働不能となりその役割を果たせなくなるため、次の出水（降雨等）に備えいち早く排水機能を仮復旧させることが求められます。

2 排水機場の浸水被害への対応

愛知県では、東海豪雨を契機に、排水機場を改築・更新する際に機器類を高い位置に据えるハード対策を鋭意実施しているところです。

しかしながら、ハード対策の実施には時間を要するため、応急的なソフト対策として、排水機能の早期復旧に必要となる作業や調整等を整理した仮復旧マニュアルを各排水機場に備えていくことが求められています。

このため、愛知県では、新たな取り組みとして、マニュアル作成のノウハウを取りまとめた手引書「仮復旧マニュアル作成指針」を定め、各排水機場の管理者がそれぞれの実情にあった仮復旧マニュアルを備えることで、通常の維持管理の範疇を超える浸水被害発生時において、仮復旧に要す時間を短縮するなど、円滑に対応できるようにします。

3 「仮復旧マニュアル」の内容

(1) 迅速な対応へ向けての事前の備え

- ・ポンプメーカー、メンテナンス会社等、被災時に必要な連絡事項の一覧化
→ 緊急時の連絡する相手や方法・内容等を再確認・整理し混乱を防ぐ
- ・点検及び仮復旧作業開始に向けた事前準備の一覧化
→ 応急ポンプの手配の方法等、必要な対応を再確認・整理し迅速化を図る

(2) いち早く被災の状況を把握するための作業の見える化

- ・ 3つの浸水深に分け、それぞれに必要な点検・応急対応項目を設定
 - 浸水の程度により対応が異なるため、必要な項目に特化し迅速な対応を可能にする
 - 遠方からの目視による必要な応急対応を可能にする

(3) 復旧作業をスピードアップさせる取り組み

- ・ 復旧作業に必要な情報をフォーマット化したチェックシートを作成
 - ポンプメーカー等に迅速かつ的確な被災状況の伝達を可能に
- ・ チェックシートの内容をポンプメーカー等とあらかじめ情報共有
 - 交換部品の手配等の迅速化が図られ復旧にかかる時間を短縮

参考—想定する浸水深の3つの区分について

① ポンプ基礎上部まで浸水

床ピット内の配管や配線のみが浸水 → 機器等の点検と場内の清掃程度と想定

② ポンプ軸芯まで浸水

ポンプ本体、原動機、補機類が浸水 → 機器等の清掃や一部交換が必要と想定

③ 機場全体が浸水

排水機場内の設備すべてが浸水 → 上記に加え電気系統の応急設備が必要と想定

